

乗車場所変更

※近鉄四日市駅周辺の乗場を駅西・みずほ銀行周辺に変更しました。

「旅くらぶ」具体的旅行計画の案内

※食事前に、元善光寺とリンゴ狩りを済ませます。食事は13時～

- ・実施日: 9月24日(火)「南信州リンゴ狩り日帰りバス旅(グリーントラベル)」
- ・参加費: 10,000円/人
- ・乗車場所: 近鉄四日市駅周辺・富士電機三重工場駐車場

旅行日程表		119-712024-01/27-乗車
■顧客名: 富士電機 旅くらぶ 様		119-712024-01/27-乗車 TEL: 059-364-6767 FAX: 059-364-9208 〒510-0027 四日市営業所 三重県四日市市大字茂福140-1 yokkaichu@greentravel.co.jp
■コース名: 「高信州:元善光寺&りんご狩り&天竜峡大橋」		株式会社 グリーントラベル 定休日: 毎週水曜日、祝日、12/29~1/4 連絡先: 近鉄バス旅行事業部 番号 T8180001021781
■日程: 2024年09月24日(火) ~ 2024年09月24日(火)		

月・日	行程	食事
09/24 (火)	8:15 近鉄四日市駅周辺 8:30 富士電機 駐車場 ====四日市東IC====名古屋西IC====小牧IC==== 15分 11:00~11:45 ====屏風山PA(休)====座光寺スマートIC====元善光寺(参拝)==== 12:15 ~ 12:50 13:00~14:00 出発14:30 ====飯田市 三和観光農園(りんご狩り)====ドライブイン酒蔵(昼食・ショッピング) ★りんご5玉収穫体験! (その場で食べていただいてもお土産されてもOK) 15:00 ~ 15:30 ====飯田IC====飯田山本IC====天竜峡大橋 そらさんぽ天竜峡(見学)==== ★天竜峡大橋の桁下にある地上80mの遊歩道見学 国指定の名勝に指定されている「天竜峡」 15分 10分 ====飯田山本IC====(中央道)====恵那峡SA(休)====内津峠PA(休)====小牧IC==== 18:15頃 18:30頃 ====名古屋西IC====四日市東IC====富士電機 駐車場====近鉄四日市駅周辺 市民公園噴水前	
	昼食時の飲料費(自己負担) 乾杯用は幹事会で検討 バス車内でのマイクやテレビの使用は可能でございます。 ドライバーに使い方の説明をするようにお伝えいたします。 昼食時の飲料につきましては、「ソフトドリンクバー & スイーツ」のサービスが付いております。 ソフトドリンクは飲み放題でございます。 アルコール類の料金は下記のとおりです。	
	★ビール(大瓶) 700円(税込み) ★生ビール(1杯 約350ml) 500円(税込み) ★日本酒(1合) 400円(税込み) ★冷酒(180ml) 500円(税込み)	

9月24日「南信州日帰りバス旅」集合場所

観光バス
グリーントラベル貸し切り(大型バス)
添乗員同行



集合場所

1. 近鉄四日市駅西口ミズタニビル①周辺

集合時間: 8時05分 (出発: 8時15分)

*トイレは富士電機増進センターに有り



2. 富士電機三重工場 健康管理センター(増進センター)とBLUEARK(ブルーアーク)の間。

集合時間: 8時20分 (出発: 8時30分)

*車で参加の方は、「タクシー待機場」に駐車して下さい

*トイレは富士電機増進センターに有り



※スマホにマイクを当て、見どころを説明してもらいましょう。

主な見どころ

ドライブイン酒蔵

3.89 ★★★★★ (32件)

ジャンル： 日本料理 定食、食堂 スイーツ そば 郷土料理 ドライブイン 食料品、飲料品

住所： 長野県飯田市北方813-1

電話： 0265-25-8865

最寄り駅： 切石駅[出口]徒歩24分

営業時間： 営業時間外 - 営業開始 8:30 (火)

▼ 詳細を見る



三和観光農園



南アルプスの風景を一望しながら果物や野菜狩りを楽しめる観光農園。果物はブルーベリーやリンゴ狩りを楽しめ、野菜はアスパラガスの収穫等を行うことができる。収穫した果物をジャムやアップルパイ等にする、フルーツクッキングを体験することも可能だ。



元善光寺



天龍峡大橋

4.55 ★★★★★ (11件)

住所： 長野県飯田市千栄

最寄り駅： 千代駅[出口]徒歩8分



元善光寺



お戒壇巡り

OKAIDANMEGURI

御本堂の外陣より、履物を履いたままでお戒壇巡りをお詣りいただけます。お戒壇巡りとは、仏様の胎内巡りともいい、暗闇の中を手すりをたどって進み、御本尊様の真下に位置する開運の錠前(仏具の独結の形)に触れていただくことで御本尊様とより深い御縁を結んでいただくものであり、またお戒壇を巡ることで、生まれ変わるという意味合いがあります。御本堂の地下を巡る御戒壇巡りとは、本来外陣にあり、草鞋や草履など履物を履いたまま巡るという現在の元善光寺の形が発祥初期の形であったといわれます。



平和の鐘

HEIWANOKANE

この鐘は戦時中供出の後、昭和二十五年四月平和を祈念するために当時の衆議院議長各大臣各位の協賛によって再鑄奉獻せられたもので、銘を善光寺貫主清水谷大僧正に、「平和の鐘」の揮毫は元久迹宮朝融王殿下の筆になるものがあります。鐘の目方は三五〇貫 (1,312キログラム)。